共助の取り組み

「自分の力」(自助)と「行政の力」(公助)には限界があります。「地域の力」(共助)によって、一刻を争うような事態に、情報収集や避難誘導などを行い、迅速に避難することができます。共助のための組織である自主防災組織は、勝山、秋田、境野地区で結成されています。

勝山地区の共助「地域の人が地域の暮らしを守るために」

勝山地区では、平成26年度に勝山地区自主防災隊を発足しました。同地区では、勝山公民館を避難所とした避難訓練を行い、日頃から防災の備えを確認し、防災意識の向上に努めています。

現在、組織の代表である平重喜さんにお話を伺いました。平さんは、「自分の身は自分で守る、自助だけでは不足する部分を、自治会で助け合うことが必要。高齢化が進んでいますが、地域で暮らしている人たちがやらなければ、誰がする？という気持ちで活動しています」と、笑顔で話し、「課題は多くありますが、まずは組織と連絡体制の確立です。自治会ごとに連絡網を作成し、どのようにスムーズに生かせるか。役員で話し合いを重ねて、考えていきたいです」と、話してくれました。

避難訓練の様子

公助の取り組み

1　防災行政無線について

・防災行政無線とは？

主に災害時の情報伝達を目的としており、屋外の拡声スピーカーから情報が無線で放送されます。

・現在の防災行政無線の状況について

現在は、置戸、境野、勝山地区の市街地のみ子局（スピーカー）があり、秋田地区の市街地は整備されていません。現在の防災行政無線は、昭和59年度に導入以来、33年が経過し、設備の老朽化のため、Ｊアラートなどの情報配信機器と接続ができません。このため、町は機器の入れ替えなどの整備を今年度末までに進めています。

・平成30年４月から防災行政無線は、どう変わるの？

１．秋田地区市街地に子局（スピーカー）が設置されます。

２．Ｊアラートとの接続が可能となり、迅速な情報発信ができます。

３．無線放送された内容が聞き取れなくても、電話で聞き直す機能があります。

・戸別受信機について

住宅の気密性の向上や雨の音により、無線放送が聞こえない場合でも、町内に流れる無線を住宅内で聞くことができます。受信機は、自主防災組織、または自治会に１台を配布する予定。設置する住宅は、組織や自治会内で話し合いを行い、決めることになります。災害のときには、戸別受信機を活用し、自治会内での迅速な避難体制につながることを期待しています。

2　「情報メールおけと」の今後の取り組み

防災行政無線整備で、情報メールおけとでも防災行政無線の内容が受信できるようになります。無線が聞こえなかった場合でも、戸別受信機と同様に情報を受信できることから、より速い避難行動が取れるようになります。

もしも、鹿ノ子ダムがなかったら？

昨年８月の台風のときには、ダム管理支所では、流入する雨水を貯め込みながら、下流に流す量を減らすための操作（防災操作）を行っていました。鹿ノ子ダム管理支所によると、「当時、最大流入量120トンのうち、８割をダムに貯め込んでいました。観測によると、置戸町では川の水位を20センチ低減させる効果があり、氾濫の恐れがある水位を越えませんでした。もしも、鹿ノ子ダムがなければ、常呂川が氾濫する危険が高くなっていたかもしれません」と、ダムが防災に役立っていることを話してくれました。

日頃の備えに防災ガイドマップを活用しましょう！
防災についてわからないことがありましたら、町づくり企画課企画係（☎52－3312）までお問い合わせください。